

避難訓練(地震)を実施 ~ 9月1日(木)防災の日にあわせて ~

地震を想定した訓練を行い、普段の防災への心構えを確認しました。

【学校長の講評から】 今年の避難訓練はいつもの年と違う気持ちで臨んだことと思います。東日本大震災、長野県北部地震、松本を中心とした強い地震がありました。特に、東日本大震災では、死亡15,756人、行方不明4,460人、合計21,216人の命(千曲市の1/3)が奪われました(本日の新聞)。原子力発電所の事故で、長野県の学校でも放射線測定をしています。健康に影響はないとされていますが、調査はいつまで続くかわからない状況です。



みなさんの今日の避難の様子を見てみると、とても静かに整然とできました。先生の指示を聞き、ハンカチで口を押さえて避難ができました。表情を見てみると、少し真剣さが足りないと感じる人も、わずかですがいました。地震はいつ起きるかわかりません。屋代小学校も、いつ大地震に襲われるかわからないのです。今日の自分の行動を思い返し、**いざというとき「自分の命」そして「友達の命」も守れるように**しましょう。

大震災への対応についても、現在、研究・検討しています。当面、右記のように対応を考え、児童にも指導をしていきます。



震度5以上の震災時の対応

大地震の場合は、安全を最優先し、学校におあずかりすることを基本とします。

● **登下校時** ●

児童は、無理して、登校・下校をしようとせず、近くの安全な場所(公園や畑等)で待つ(近くにいる大人に助けを求める)。普段から、避難場所を考えておくこと。

学校職員は通学路を回り、学校に一旦連れてくる。引渡しは、学校に来た保護者に手渡しで渡す。

おうちの方も家から通学路を歩き、児童を保護し、安全を確保する。可能であれば、近くにいる児童も集めておく。学校職員が見回り、その後の対応を始めます。

● **授業中** ●

安全な場所に避難をし、迎えにきていただいたおうちの方に直接引き継ぐ。

最近の学校生活から



6年生の学級が丹精込めて育てた中庭の花壇が、今、見ごろを迎えています。テーマは「花火」。夜空に大きく打ち上げられた大きな花火が表現されています。学校にお越しの際は、是非ご覧ください。

小学校に上がって、急に ×をつけられるような感覚が、私（母親）の中に出てきて、何だか疲れた気分になることがあります。「もっと、幼稚園のときから、お勉強した方がよかったかなあ...？」と思ったりします。



勉強は、そう簡単にできるようなものにはならないものです。

漢字が書けた、計算ができたといった喜びもあれば、文章を読んでも難しくてわからない、応用問題はどうしても解けないという苦しみもある。それが普通なのです。

学年が上がれば上がるほど、大変だなという思いで、何とかやっているのがほとんどの人たちです。いつも満点、何でも万能をめざす強さを求めていると、ある日ポキッと心が折れてしまう心配はないでしょうか。柳の枝のように重い雪を曲がることによって耐え、春を待つ時期もあるように思えます。勉強は終わりというときはなく、一生涯続くものなので、**あわてず、しかし、あきらめずに、少しずつ学んでいけばよい**と考えましょう。

勉強ができる子、1等をとる子がよい子、そうではない子は悪い子と決めつけてしまう風潮が心配になります。それぞれが自分の人生の主人公として胸を張り、**精一杯生きていくことがすばらしい**ことなのです。

啐啄同機（そったくどうき・さいたくどうき）という言葉があります。卵が孵化するときは、卵の中のヒナが殻を自分のくちばしで破ろうとし、また親鳥も外からその殻を破ろうとする。ヒナが殻を割ろうとする前に親鳥が殻を割ってしまえば、ヒナは死んでしまいます。しかし、親鳥が殻を割るのを手伝ってくれなければ、外に出られないヒナもいます。そのタイミングがピタッと一致するからこそ、ヒナはこの世に生を受けて、外の世界に出ることができるのです。



勉強にも似たようなことがあります。早くやりさえすればよいのでなく、タイミングが大事。その時期にやるべきことをたっぴりやり終えると、次のやりたいこと（発達課題）が生まれてくる。そのときに、親はサッと手を貸してあげるのです。例えば、文字に興味をもち始めた子とカルタ取りをすれば、あっという間に字を覚えていきます。

小さいときは、特に、**体を動かし、自然の中で思う存分遊ぶことが、よりよい発達を促す**ことになると考えられています。

